新米じいちゃんが教える コンピュータの基礎

第1回 インストールではレジストリに注意せよ

矢沢 久雄
1961年栃木県足利市生まれ。姉の孫から「じいちゃん」と呼ばれて、じいちゃんデビューしたばかり。じいちゃんは、パッケージソフトの開発に従事する傍ら、企業や学校で若者を相手に教鞭も執っている。ベストセラー「プログラムはなぜ動くのか」の著者でもある。

1月から続けてきた「コンピュータの基本中の基本」の装いを新たにして、今回から「コンピュータの基礎」という名で始めることになった。パソコンを使いこなす上で知っておきたいコンピュータの基本的なことがらを、わかりやすく解説していくぞ。

さて、今回は、Windowsパソコンにプログラムをインストールする仕組みを説明しよう。ところで、ふだん何気なくインストールという言葉を使っているが、どういう意味かご存知かな。インストール（install）を直訳すると、装置や設備を「据え付ける」という意味であり、語源は、ラテン語で「中に置く」という意味じゃ。つまり、コンピュータの中にプログラムを置く、というわけじゃよ。

ワシは、仕事でパッケージソフトを開発しておる。パッケージソフトとは、不特定多数のユーザーに販売するプログラムのことじゃ。このパッケージソフトは、プログラムの本体である**EXEファイル**（実行可能ファイル）、取扱説明書のヘルプファイル、およびサンプルデータファイルから構成されている。これらのファイルをCD-ROMからハードディスクにコピーすればインストールが完了するが、いちいち手作業で行うのは面倒だから、インストールを自動的に行うセットアッププログラムを用意してある。ワシは、親切じゃからのう。

セットアッププログラムの名前は、**Setup.exe**またはApplication**.msi**（Applicationの部分は何でもよい）とするのが一般的じゃ。

Setup.exeは、単独で起動するプログラムであり、Application.msiは、Windowsが持つインストール機能（Microsoft Windows Installerと呼ぶ）が読み出すデータじゃ。拡張子の.msiは、Microsoft Installerを意味している。これ以降では、このファイルを**MSIファイル**と呼ぶぞ。

インストール用のCD-ROMの中に、Setup.exeとMSIファイルのどちらを入れておくかは、状況次第じゃ。両方を入れておく場合もある。Setup.exeは、はるか昔のWindows 3.0やWindows 95の時代から使われ続けているセットアッププログラムであり、その内容は、好き勝手でよろしい。EXEファイルは、それ自体が動作するプログラムじゃから、何でもできるのじゃ。

しかし、好き勝手はよろしくない、ある程度インストール処理にルールを設けた方がよいということで、Windows 2000の時代からマイクロソフトが取り決めたMSIファイルというデータを使うインストール方法が推奨され、現在に至っている。

インストールという処理をOSに行わせるのがMSIで、開発者が自分のプログラムで行うのがSetup.exeというわけじゃ。

CD-ROMの中に、Setup.exeまたはMSIファイルのどちらか一方

※自動実行が設定されているCD-ROMの場合は、ファイルをダブルクリックする必要がない。
図1　インストールの開始方法